2011年６月２３日

こども環境セミナー定例会報告（11年度第３回）

概要

１．主催　　こども環境学会 北陸こども環境研究会
２．日時　　2011年６月11日（土）14:00-16:30
３．場所　　マリーマリー（呉羽山山頂喫茶店）
４．参加者　（エントリー順）　　以降敬称略
　　出席者：早川隆志、富樫豊　　計２人
５．次第　　進行・記録：早川、富樫
　・富樫豊（建築遊人）
　　：東日本大震災報告（続）、被災者生活様相の報告
　・早川隆志（NPOこども遊ばせ隊）
　　：精神的な病における遊びの効用

第一部　基調報告　14:00～15:00

１．富樫豊（建築遊人）
　:「東日本大震災（続）、被災者生活様相」
　現地には、紙芝居やじゃれ付き遊びなどのこども遊ばせグループが多数入っている。私と粟原さん他は、彼らのものとバッテイングしないよう、狭いところで家族とともに、しかもあまり高度な技術をようせず気楽に遊べることが、あの避難所で気持ちを維持しがんばれることのできる処方箋と考えて、紙風船を1200個持って三陸の各地に出向き、小学校や避難所などで配り、一緒に遊んできた。避難所で夕方や夜に、手持ち無沙汰を解消する意味もこめて、手のひらに乗る売薬の四角い紙風船は効果絶大であった。被災者にとって遊ぶ場所もとらず家族ともに遊べるとあって、夕食前や後の時間が有意義に過ごされたものと思っている。

２．早川隆志（NPOこども遊ばせ隊）
　：「精神的な病における遊びの効用について」
　精神病理学や介護関係の研究者は自閉症について大きな勘違いをしている。精神疾患は薬で治すものであるとして、薬の効き方や、症状分析といった技術的なことばかりが問題の中心となっている。精神的疾患は実はもっと簡潔に捉えるべきであり、母親の愛情が十分でなかったことが大きな原因のひとつと考えている。よって、問題の解決には人間的なふれあいの観点からのアプローチが今まさに求められているのであり、母親は子どもにもっとじゃれ付き遊びをしてあげれば、改善するものと思っている。自分がこれまで自閉症の多くの方々とかかわってきたが、彼らとともに遊ぶことにより、彼らは実に生き生きとしていた。そんな現場からの実践から「遊びの効用は絶大である」と思っている。

第二部 日ごろの実践活動について　15:00～16:00
　・早川コーナー
　　八尾風の盆セミナーの具体化
　　粟原案をたたき台にして、役割分担やスケジュールの策定を行った。
　　最終確定は粟原事務局長を交えて７月中旬以降に行うこととした。

次回　　８月６日（土）14:00-16:00、マリーマリーを予定（日本福祉大富山オフィスかもしれない）
　　話題提供予定者：澤田真由美、松谷芳正、粟原知子、（早川隆志、富樫豊）